

(メッセ海外通信 2009年4→6月号掲載記事)

～見直される中国の医療保障制度～

下関市総合政策部国際課
(青島市派遣職員)
白野 哲

昨今中国では「風邪でも病院代1万円」と言われるほど医療費の負担が国民に重くのしかかり、不完全な医療保障制度は社会的に大きな問題となっています。医療保障制度は人の生死に直接かかわってくる問題でもあるため、中国国民の関心も非常に高く、国としても放置できない状態にあります。

■崩壊した医療保障制度

そもそも中国では1960年代までに、計画経済に基づく労働保険医療制度、公費医療制度、農村協同医療制度の三つの医療制度を確立して一定の効果を挙げていましたが、改革開放政策導入により制度は事実上崩壊しました。制度崩壊後その負担の多くは農民にかぶさる形となり、経済発展に伴い医療費は高騰したにも関わらず、所得はなかなか増加しないため、ますます治療が受けられないという状況に陥っています。そのため、豊かになりつつある家族に重病人が出れば、たちまち貧困に陥ってしまう現象は農村でしばしば見られる光景です。



■求められる政府の対策

農民は中国総人口の実に約7割を占めています。農民生活の改善なくして安定的な国家運営や普遍的で公平な制度の確立にはなりません。そのため、中国共産党中央国務院は農民や都市部の基本医療制度を大幅に改善する事を目標とする「中国共産党中央国務院の医薬衛生体制改革推進に関する意見」を発表し、2011年までに「費用が高い、なかなか診察が受けられない」という問題を確実に改善すると打ち出しています。制度の柱は、以下の5本になります。

1. 基本医療保障制度建設の促進
2. 初歩的な国の基本薬品制度を設立
3. 末端医療衛生サービス体系の健全化
4. 基本公共衛生サービスの均等化促進
5. 公立病院の改革促進

この制度を通して、今後3年の間に都市住民の基本医療保険加入率と農村の新式合作医療への加入率を90%以上に高める計画で、2010年には都市住民の医療保険と新式の農村合作医療に対する国の補助は毎年一人あたり120元に達する見込みです。また、8,500億元の巨費を投入し、県クラスの病院、郷鎮の病院、辺境地区の診療所、貧困地区の都市の診療サービスセンターの建設を重点的に進めるとしています。

中国は、全面的に「小康社会」建設を進めていますが、医療保障問題は重要なポイントを占めており、その中でも最も困難なのが農村の医療問題だと言われています。全体的に見ると、中国政府の医療制度整備の焦点は都市部に置かれてきたのが現実であり、人口の約7割を占める農村の医療保障をどのように解決していくかが今後の大きな課題になるでしょう。